

第2章

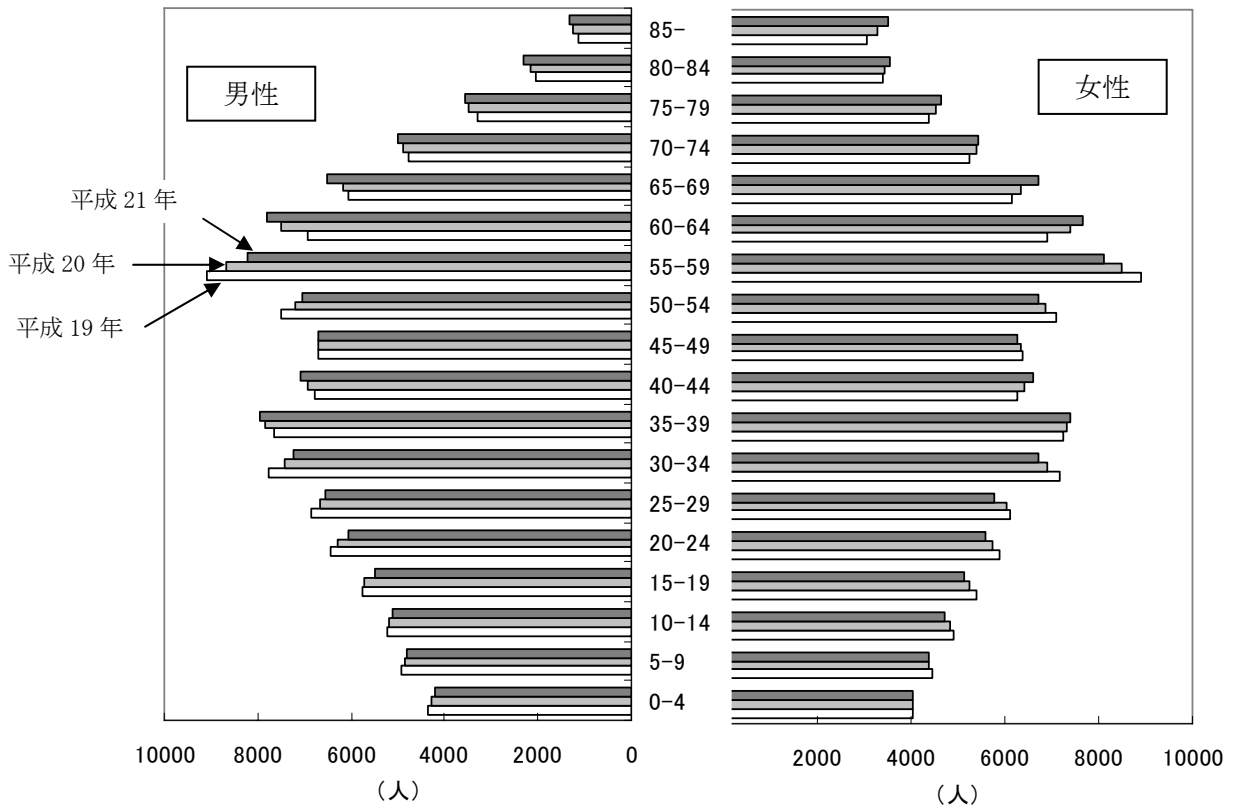
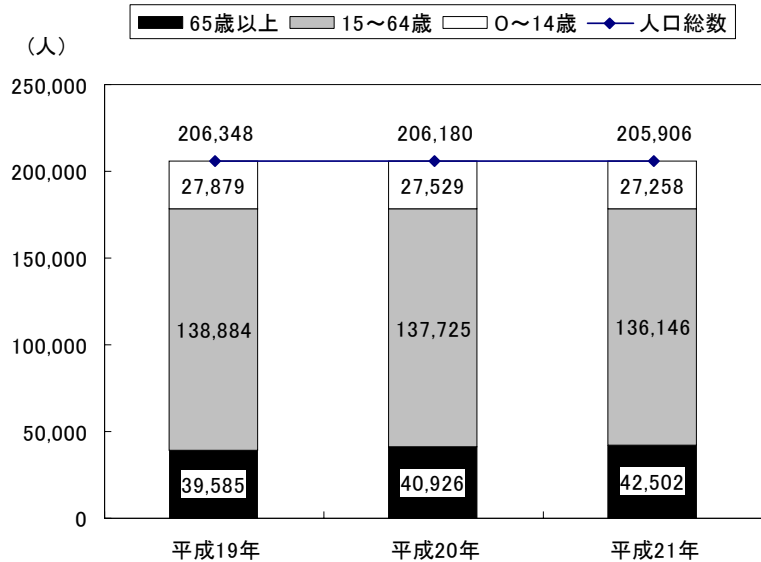
子どもや子育て中の親を 取り巻く状況

1 少子化の動向

1-1 年少人口の推移

平成 21 年 4 月 1 日現在、熊谷市の総人口は 205,906 人となっており、減少傾向にあります。
 年齢 3 区分では、65 歳以上人口が増えている以外、年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15～64 歳）とも減少してきており、少子高齢化が進んでいます。5 歳階級別男女別人口では、35～39 歳、40～44 歳と 60 歳以上の年代で増加傾向にあります。

■ 年齢3区分人口の推移(熊谷市)

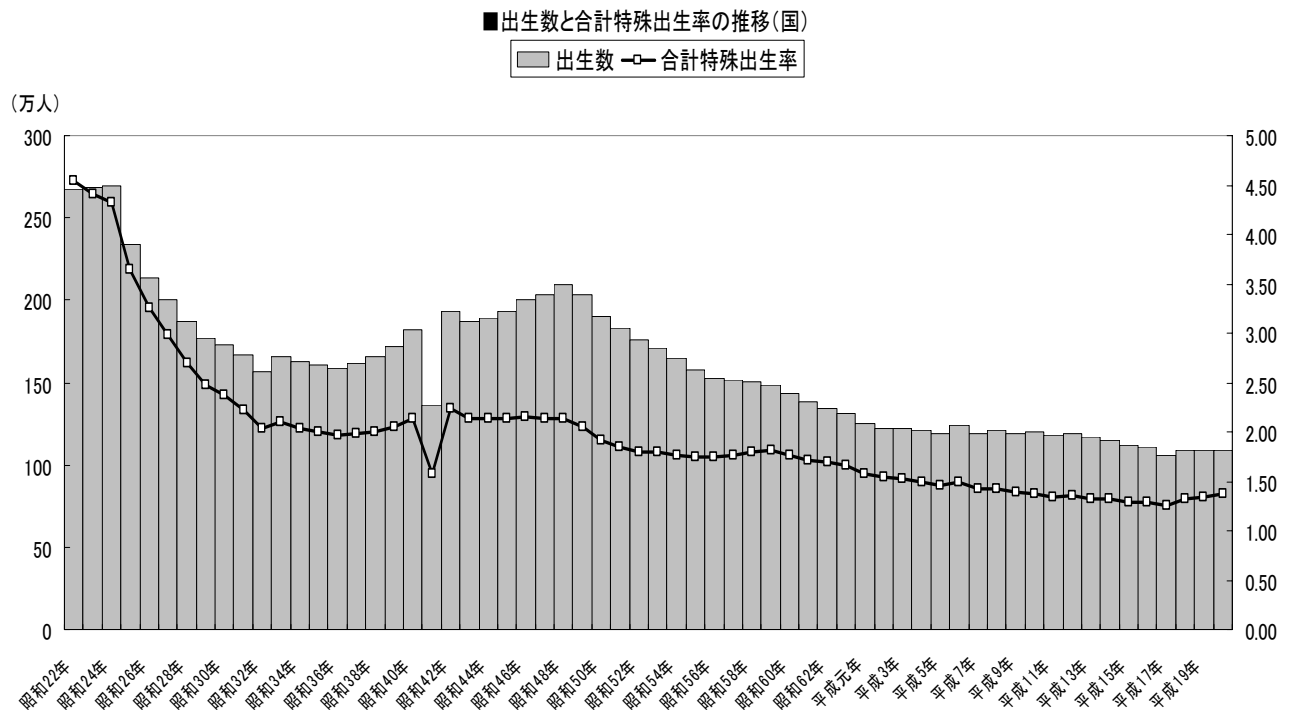


資料：住民基本台帳人口（外国人含む。）各年 4 月 1 日現在

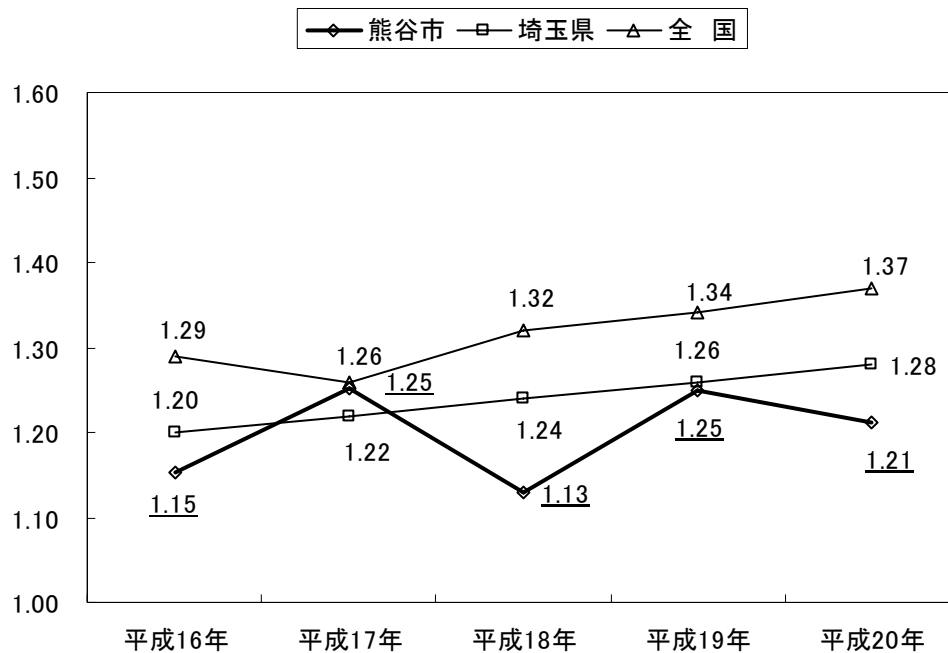
1-2 出生の動向

合計特殊出生率※1は、全国的には平成17年に1.26と過去最低に落ち込んだあと、平成19年に1.34、平成20年に1.37と、ここ最近、増加に転じていますが、依然低い値で推移しています。

母親の年齢階級別出生数の推移では、20歳代後半から30歳代前半までの出生数が全体的に多く、また、30歳代後半の出生数は増加傾向にあります。



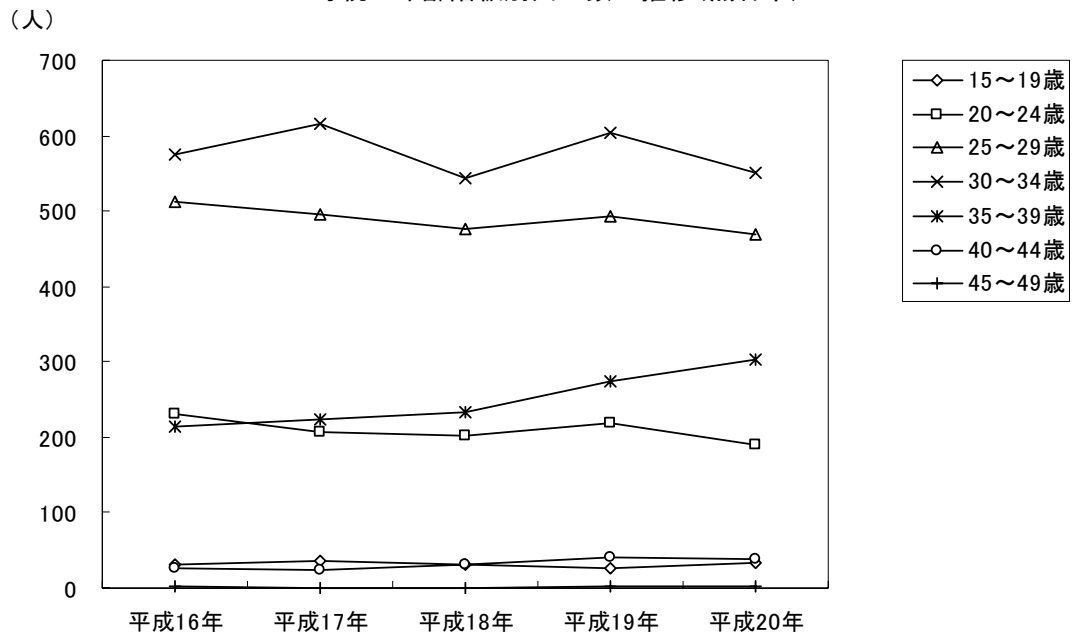
■ 合計特殊出生率の推移(国、県、熊谷市)



資料：人口動態統計データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

※1 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が一生の間に産むであろう平均的な子どもの数。国として人口増減のない状態は2.1とされている。

■母親の年齢階級別出生数の推移(熊谷市)



※表中の年齢階級別出生率=女子の年齢階級別出生数/女子の年齢階級別人口×1000

資料：人口動態統計データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

1-3 婚姻の動向

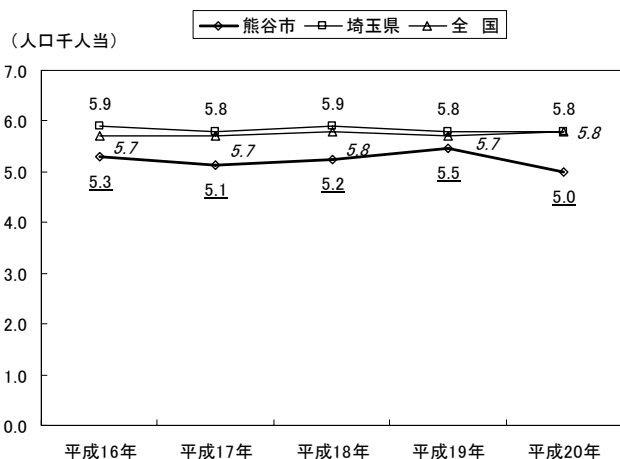
熊谷市の婚姻率は、全国や埼玉県平均より低く、横ばいもしくは微減で推移しています。

熊谷市の離婚率も、全国や埼玉県平均より低く、ほぼ横ばいで推移しています。

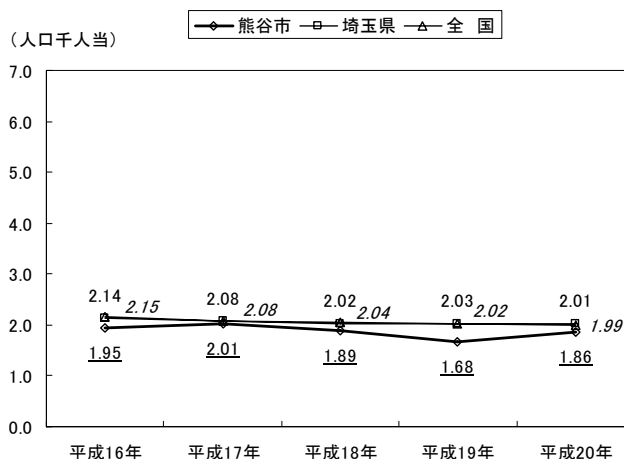
熊谷市の男性の平均初婚年齢は、平成19年で30.8歳と埼玉県平均とほぼ同水準、女性の平均初婚年齢は、平成19年で28.4歳となっており、男女とも初婚年齢が上昇しています。

男性・女性とも、未婚率は徐々に高くなってきています。また、年齢層が高くなるほど、未婚率の伸びが大きくなっています。

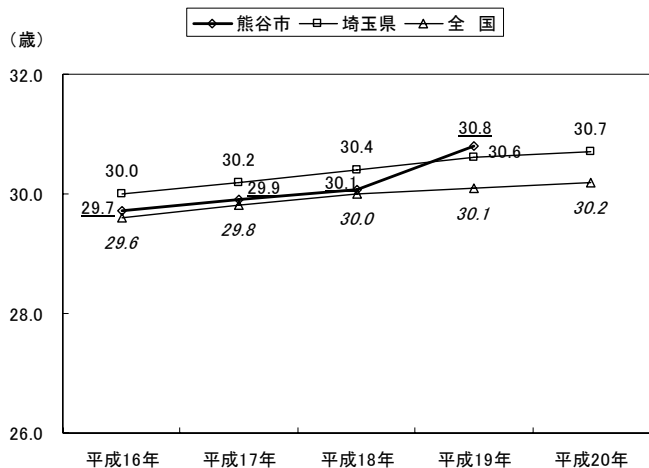
■婚姻率の推移(国、県、熊谷市)



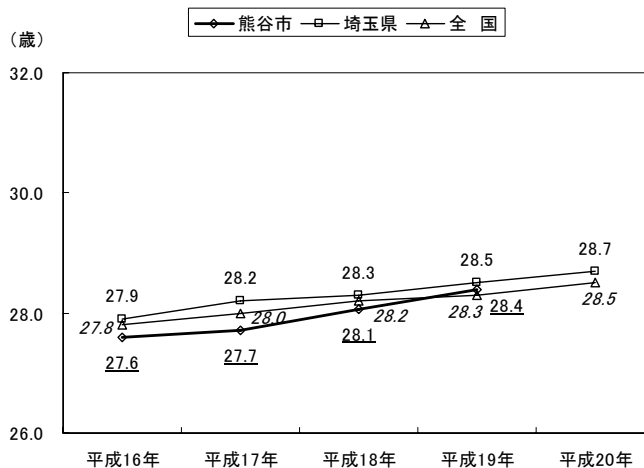
■離婚率の推移(国、県、熊谷市)



■男性の平均初婚年齢の推移(国、県、熊谷市)

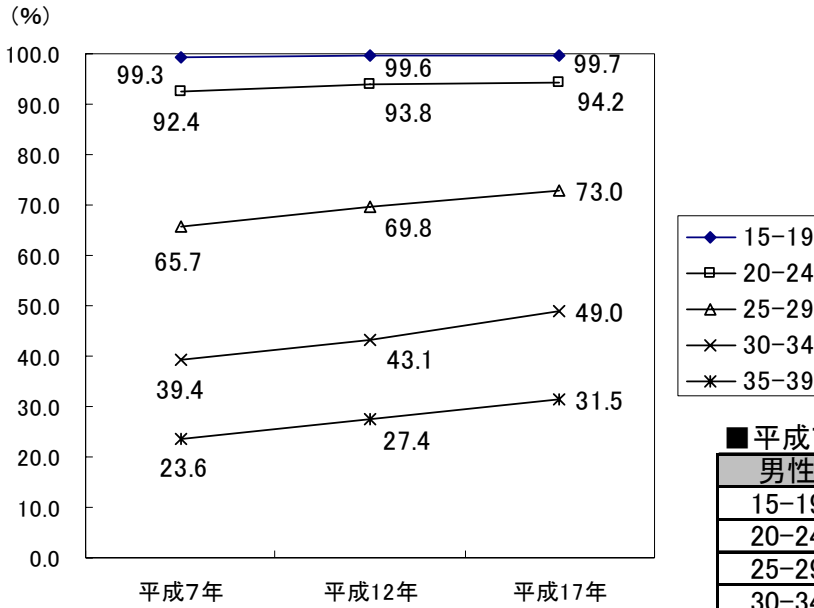


■女性の平均初婚年齢の推移(国、県、熊谷市)



資料：人口動態統計データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

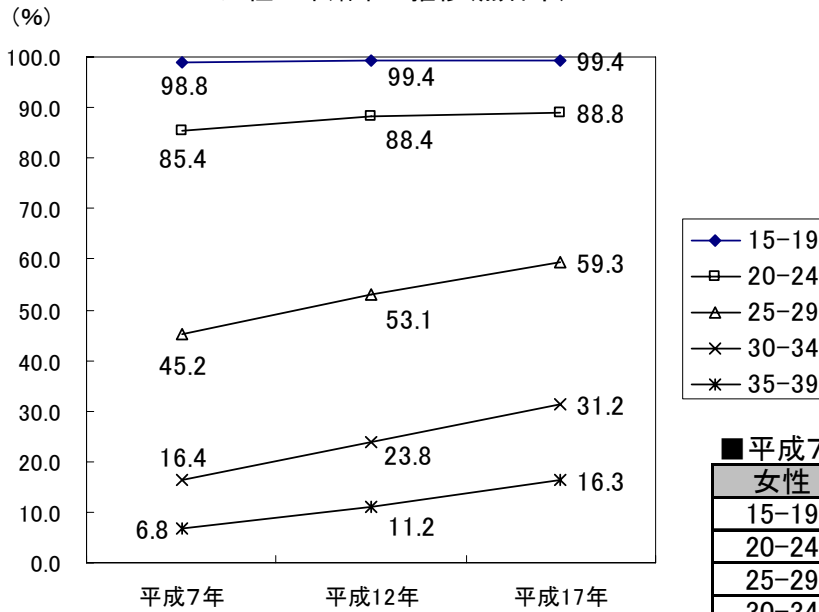
■ 男性の未婚率の推移(熊谷市)



■ 平成7年を1とした場合の未婚率の伸び

男性	平成7年	平成12年	平成17年
15-19	1.000	1.003	1.004
20-24	1.000	1.015	1.019
25-29	1.000	1.062	1.111
30-34	1.000	1.094	1.244
35-39	1.000	1.161	1.335

■ 女性の未婚率の推移(熊谷市)



■ 平成7年を1とした場合の未婚率の伸び

女性	平成7年	平成12年	平成17年
15-19	1.000	1.006	1.006
20-24	1.000	1.035	1.040
25-29	1.000	1.175	1.312
30-34	1.000	1.451	1.902
35-39	1.000	1.647	2.397

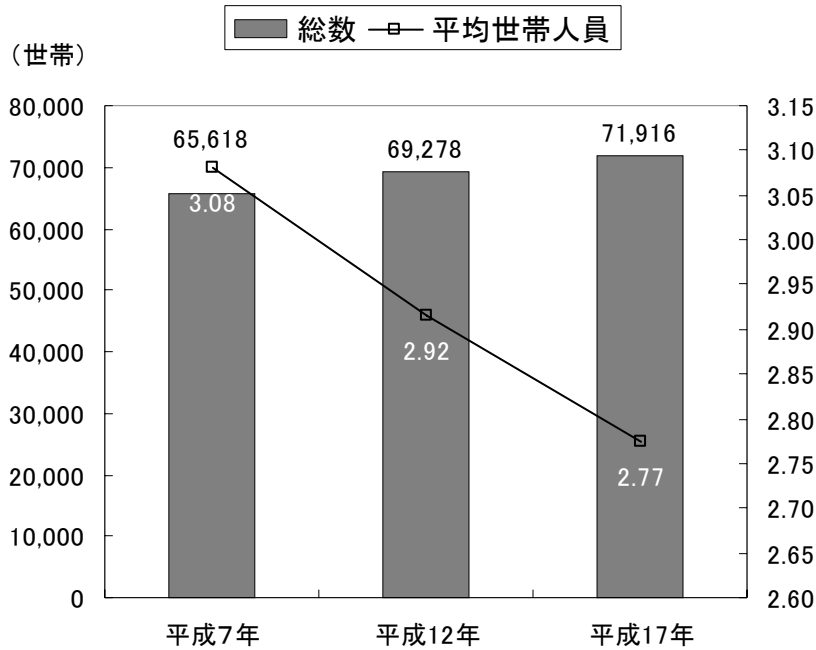
資料：国勢調査データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

2 家族や世帯の状況

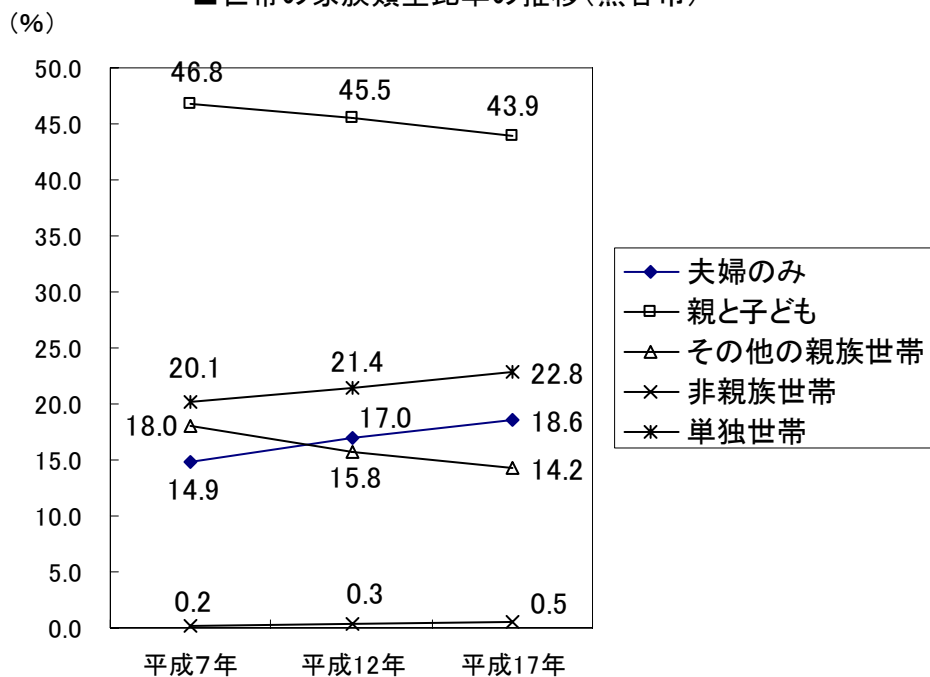
2-1 世帯の動向

世帯総数は増加していますが、平均世帯人員は減少傾向にあります。
 家族類型比率では、親と子どもの世帯が減少、夫婦のみや単独世帯が増加しています。

■世帯数及び平均世帯人員の推移(熊谷市)

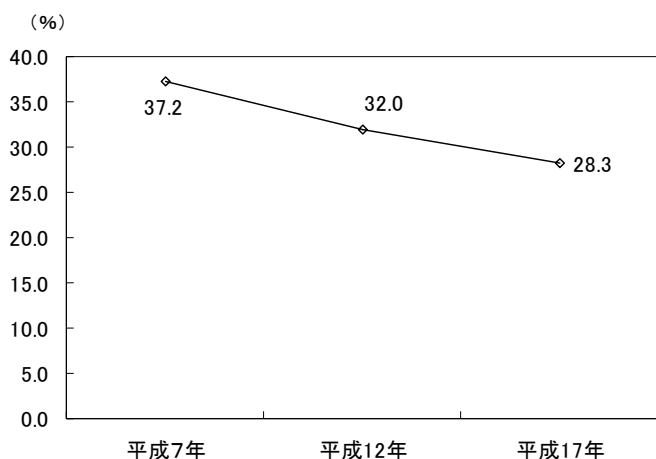


■世帯の家族類型比率の推移(熊谷市)

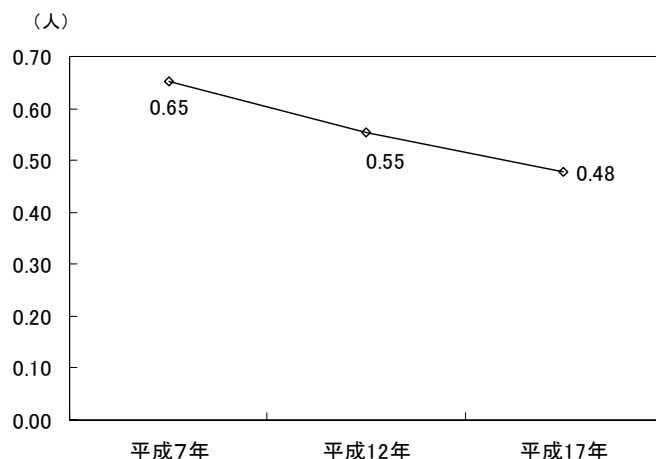


資料：国勢調査データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

■一般世帯のうち18歳未満の子どものいる世帯割合の推移
(熊谷市)



■世帯あたり子ども(18歳未満)数の推移(熊谷市)



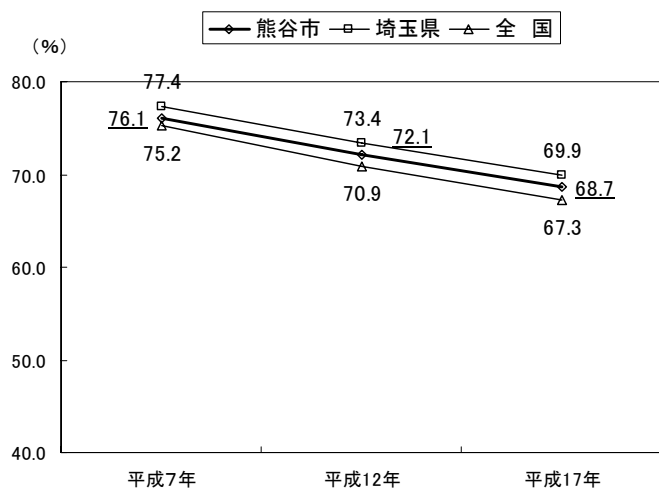
資料：国勢調査データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

2-2 就業状況

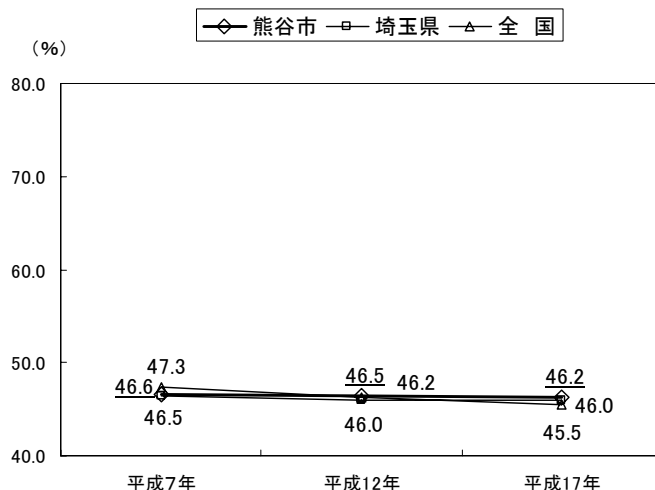
男性の就業率は全国と埼玉県の間で推移し、女性の場合は、平成12年、平成17年と全国・埼玉県平均を超えて推移しています。

年齢別女性就業率では、20歳代後半で一度ピークを迎え、30歳代で一度下がり、40歳代でまた上昇しています。

■男性の就業率の推移

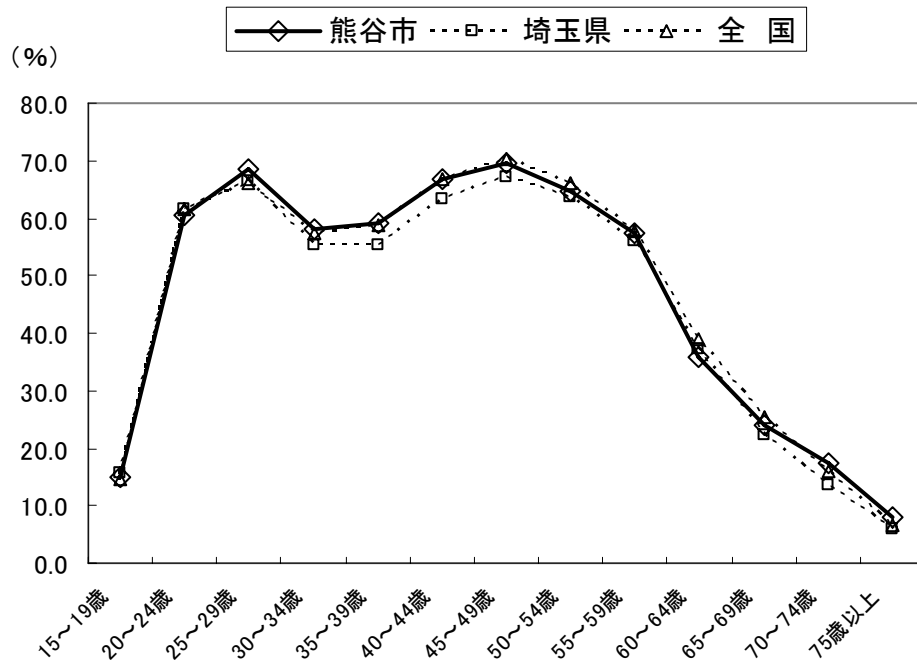


■女性の就業率の推移



資料：国勢調査データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

■女性の年齢別就業率の比較(平成17年)



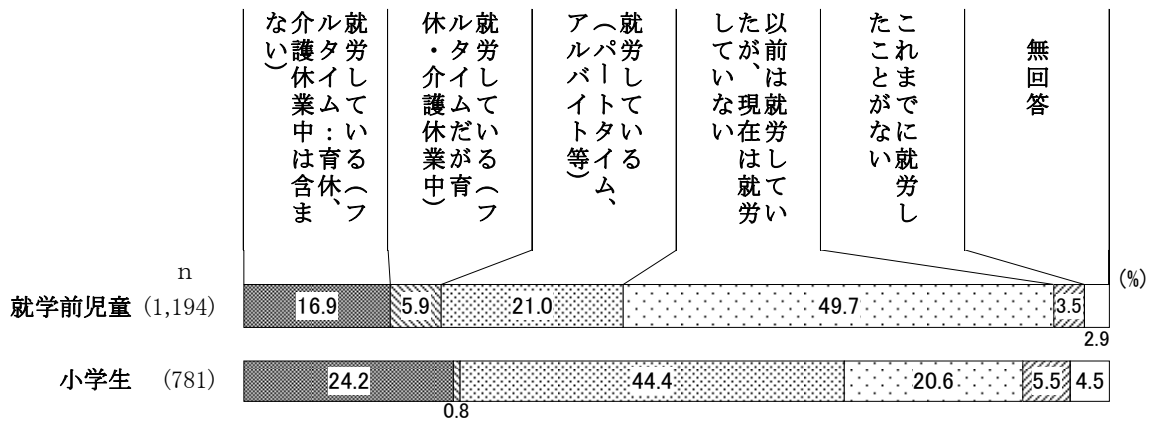
資料：国勢調査データ。熊谷市の値は、旧1市3町の合算値

3 子育ての実態

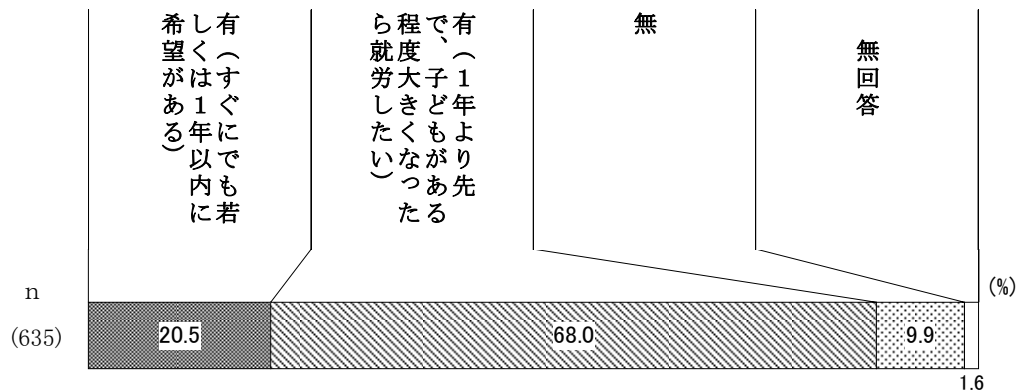
3-1 母親の就業状況

母親が就労している割合は、就学前児童保護者で43.8%、小学生保護者で69.4%となっており、小学生保護者で約3人に2人が働いている状況です。小学生保護者では、特にパートタイムやアルバイト等の割合が増加しています。また、就学前児童の母親の場合、未就労の方の就労希望が9割弱を占めており、その中でも子どもがある程度大きくなってからの就労希望が多くなっています。親の就労と子どもの育成を支える社会的基盤の構築が求められています。

【母親の就労状況】



【母親の就労希望】(未就労の方・就学前児童保護者)

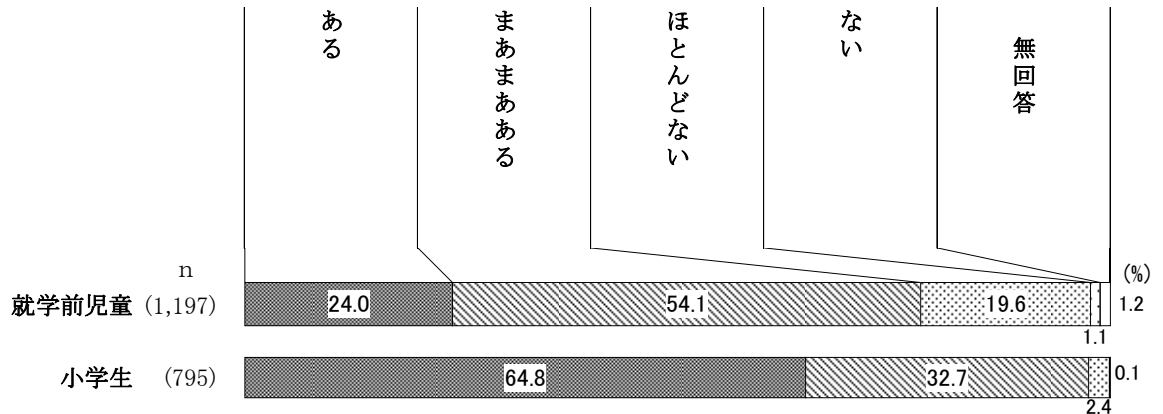


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成21年3月）

3-2 子どもと接する時間

就学前児童保護者の場合、ゆったりした気分で子どもと過ごせる人が8割弱となっている一方で、そのような時間がほとんどないと回答も2割弱います。小学生保護者の場合はほとんどの方があると回答しています。

【ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間】

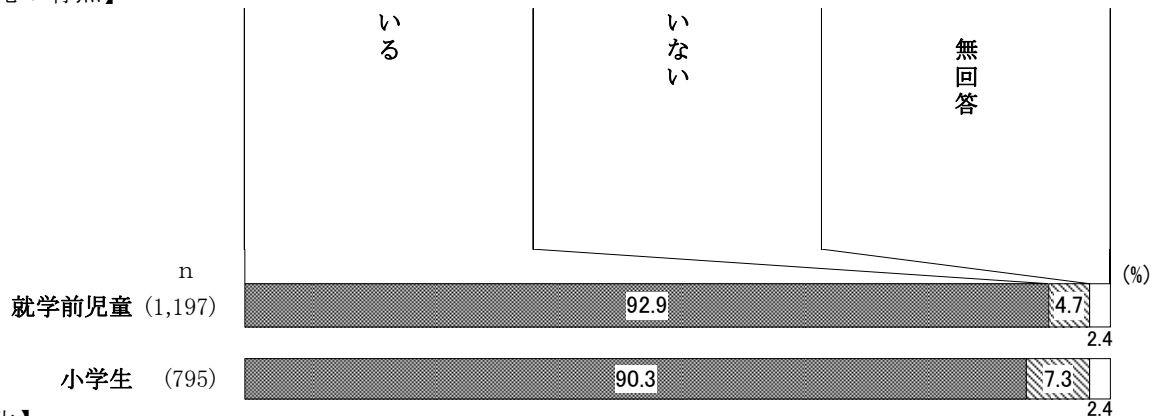


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

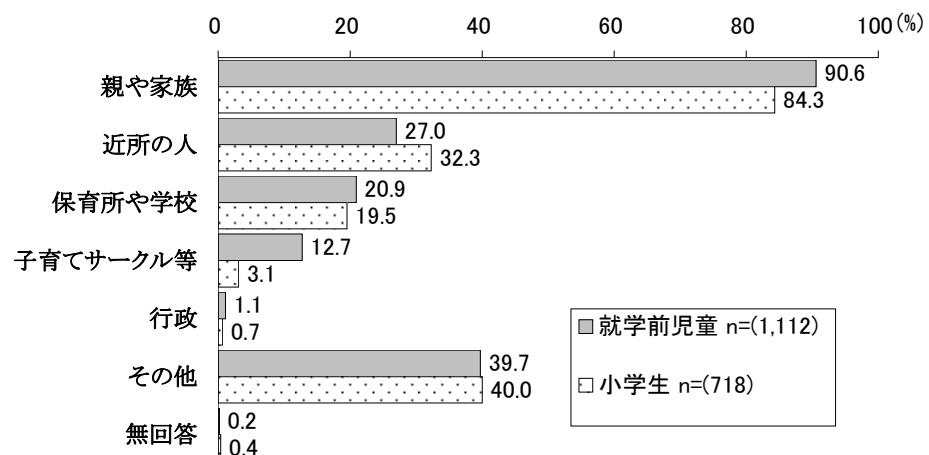
3-3 相談先

相談先は、就学前児童保護者、小学生保護者とも9割以上の方があ（いる）と回答しています。相談相手では、小学生保護者になると、子育てサークル等の割合が減り、近所の方の割合が増えていきます。

【相談先の有無】



【相談先】



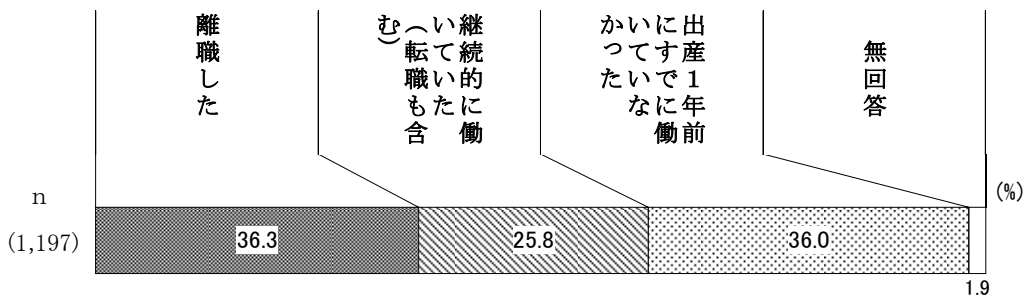
資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

3-4 育児休業制度等の利用

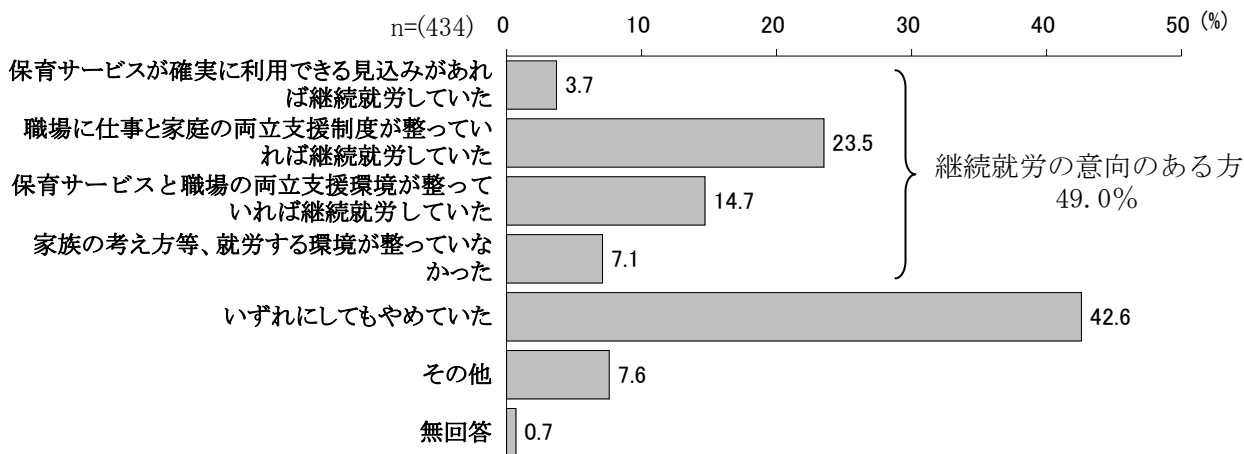
出産前後の母親の離職状況は、出産1年前にすでに働いていない人が36%、離職した人が36.3%となっており、合わせて約7割の方が離職しています。また、離職者の中で、継続就労の意向のあった方は約半数となっています。継続就労の実現に向け、支援制度や職場環境の整備が望まれています。

育児休業制度の利用状況は、母親が21.2%、父親が0.5%となっています。仕事と生活の調和の実現に向け、サービスや制度が確実に利用できる環境が望まれています。

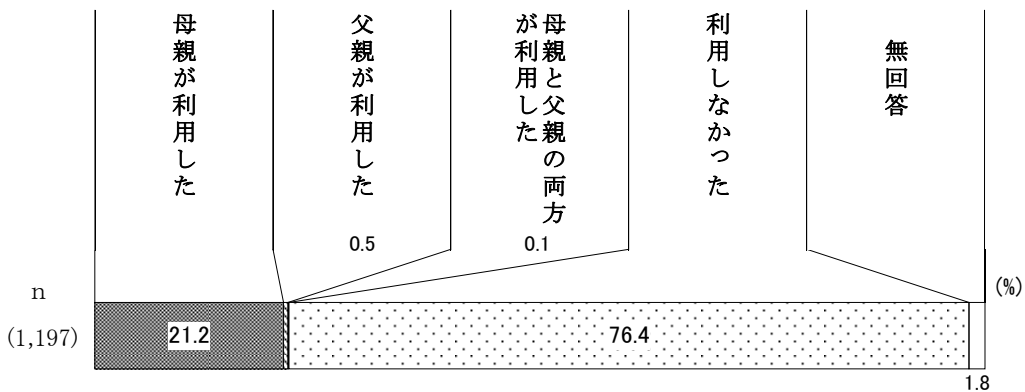
【出産前後の母親の離職状況】（就学前児童保護者）



【離職者の継続就労意向】（就学前児童）



【育児休業制度の利用状況】（就学前児童保護者）

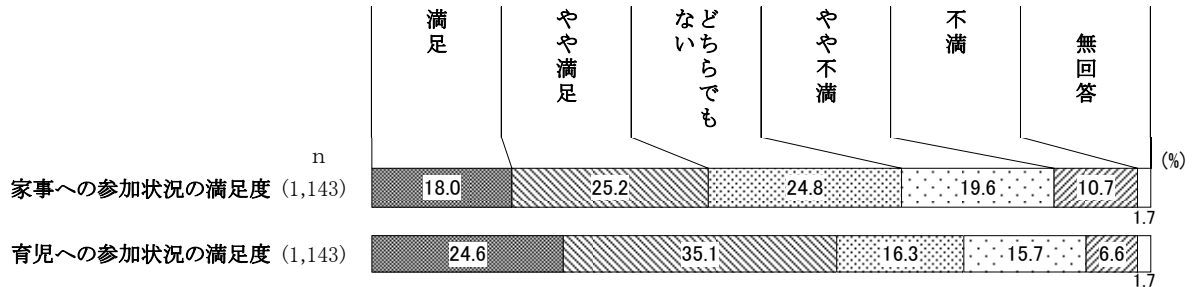


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成21年3月）

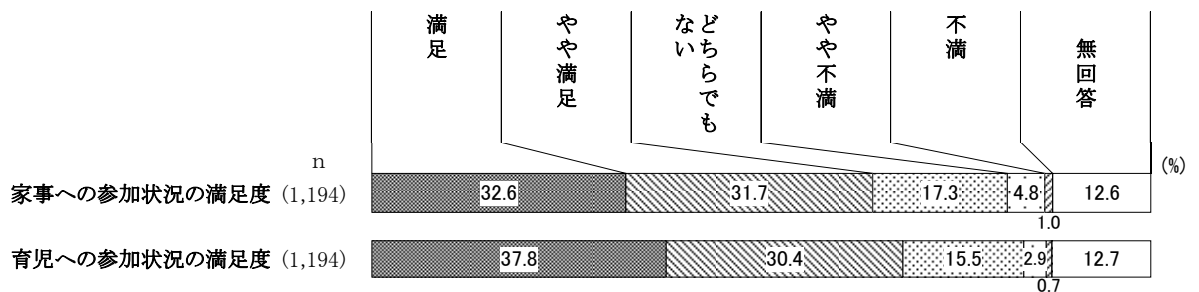
3-5 家事・育児の参加満足度

保護者同士のお互いの参加満足度は、就学前児童保護者、小学生保護者とも、父親から見た満足度のほうが高くなっています。

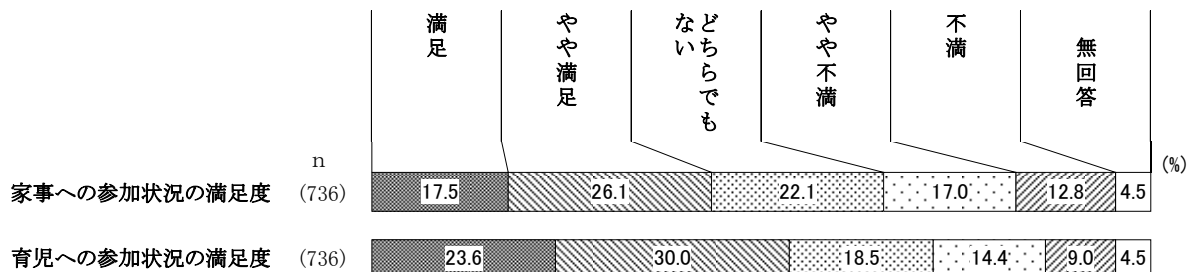
【母親から見た父親の参加満足度】（就学前児童保護者）



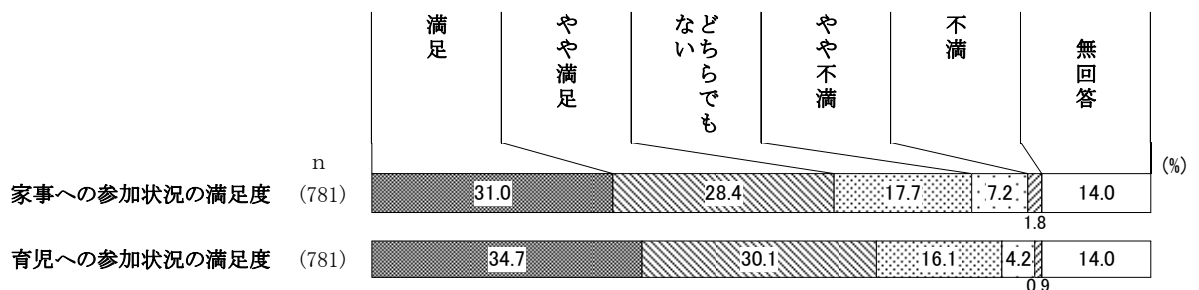
【父親から見た母親の参加満足度】（就学前児童保護者）



【母親から見た父親の参加満足度】（小学生保護者）



【父親から見た母親の参加満足度】（小学生保護者）

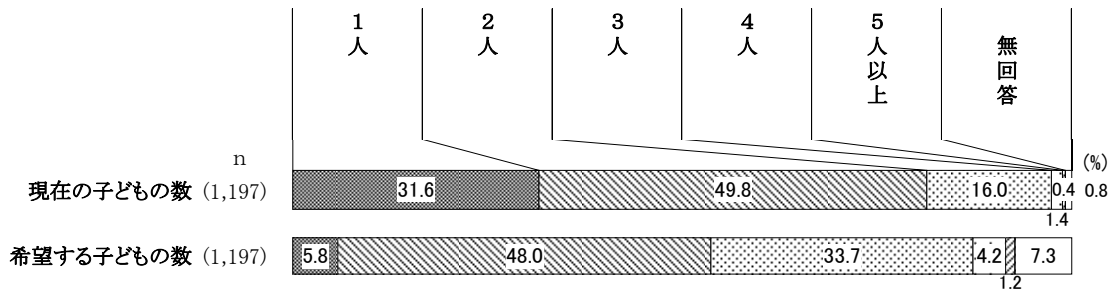


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

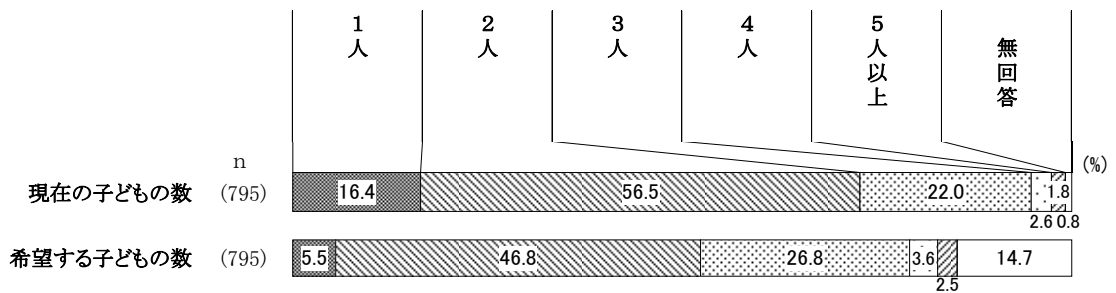
3-6 子どもの人数

現在の子どもの数と希望する子どもの数は、就学前児童保護者、小学生保護者とも、構成割合が大きく異なっています。これらの状況は、国でも国民の希望と現実の大きな乖離かいはりの存在を課題としてとらえており、就労と出産・子育ての二者択一構造の解消に向けた取組が望まれています。

【現在の子どもの数と希望する子どもの数】（就学前児童保護者）



【現在の子どもの数と希望する子どもの数】（小学生保護者）



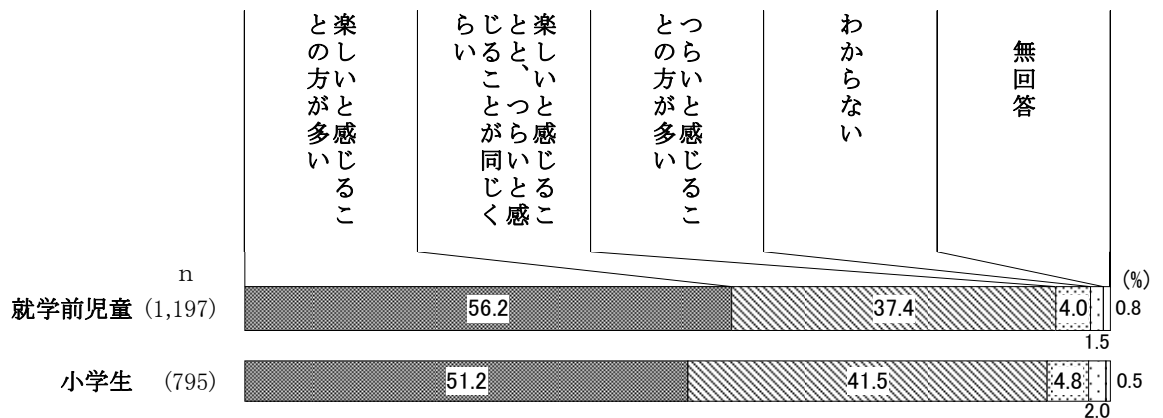
資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成21年3月）

4 子育てに関する保護者の意識・意向

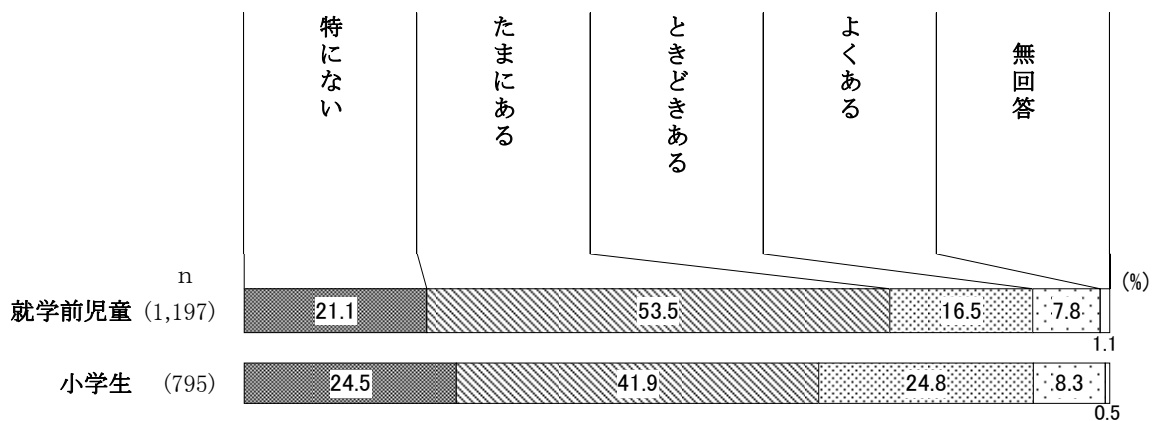
4-1 子育ての不安・負担感

子育ての不安・負担感は、就学前児童保護者、小学生保護者とも、楽しいと感じることの方が多いとの回答が半数以上である一方、楽しいとつらいが半々くらいという回答が小学生保護者で増えています。子育てに自信が持てなくなることでは、両保護者とも7割以上があると回答しています。

【子育てについて】



【子育てに自信が持てなくなること】

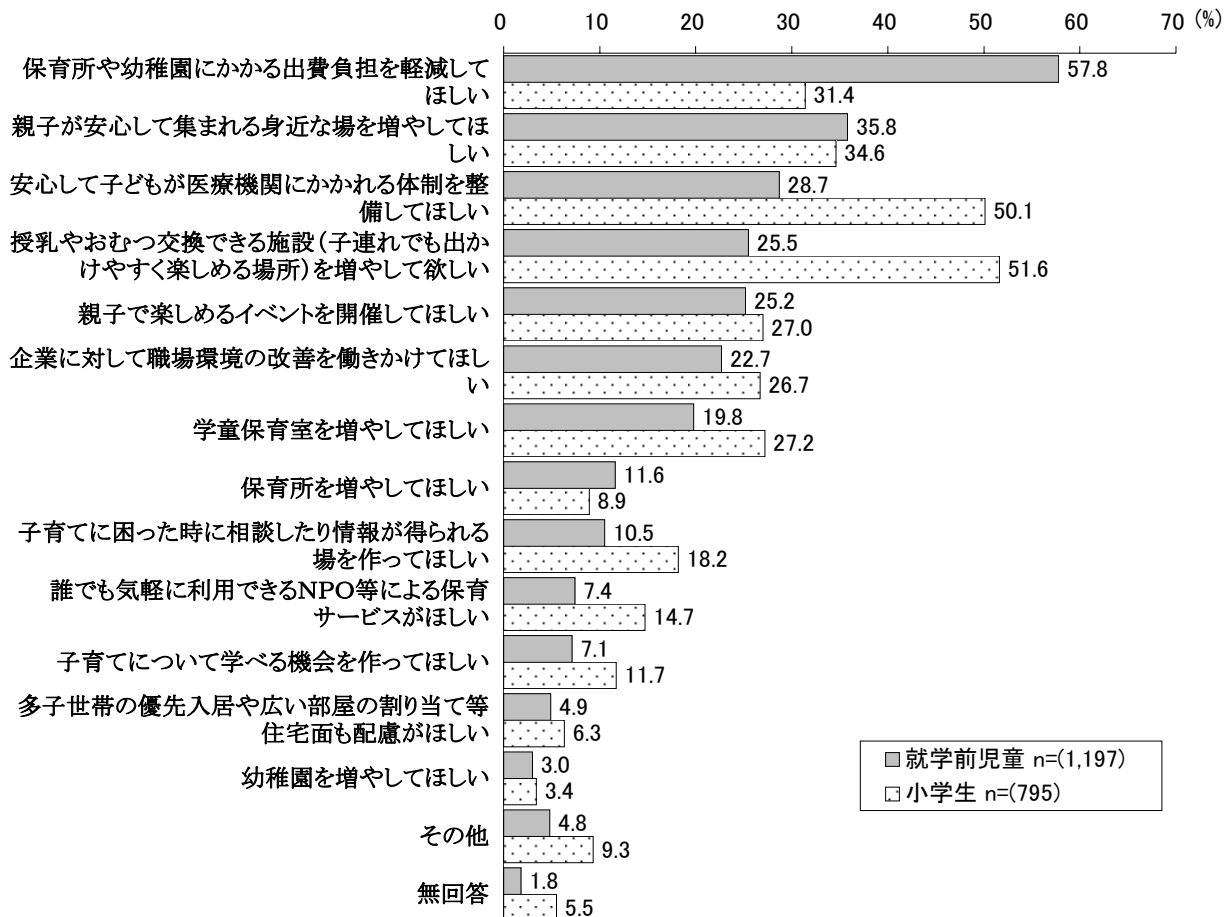


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

4-2 子育て支援に関する要望

子育て支援に関する要望は、就学前児童保護者の場合、保育費の負担軽減が最も多く、また、小学生保護者の場合では、子連れでも出かけやすく楽しめる場所の拡充や医療体制の整備が上位にあげられています。保育費の負担軽減や親子の居場所、医療体制の整備が求められています。

【子育て支援に関する要望について】



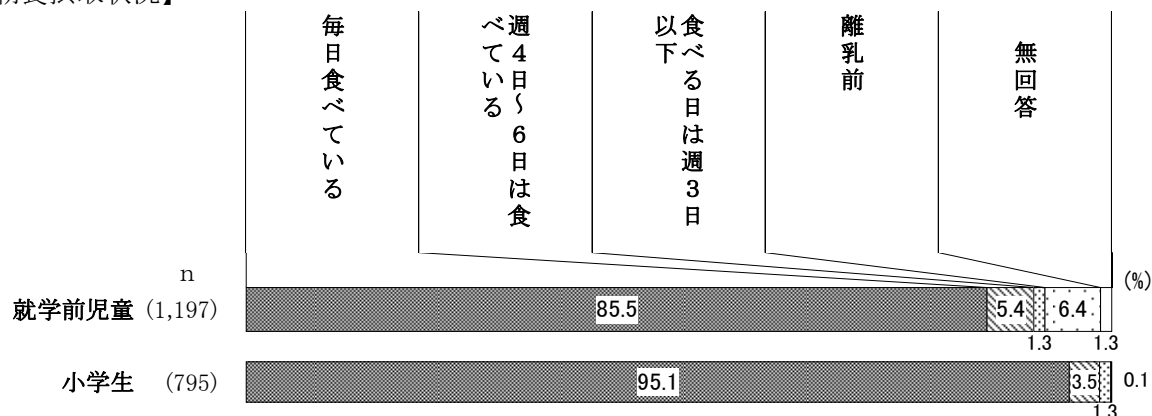
資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

5 子どもの状況

5-1 朝食摂取状況

毎日食べている割合は、就学前児童で 85.5%、小学生で 95.1%となっています。国では、食生活の問題の一つに朝食の欠食をあげ、食育の推進にあたっての目標として、朝食を欠食する割合の減少をあげています。健全なからだづくりに向けて、子どものころからの望ましい食習慣や生活リズムの習得が求められます。

【朝食摂取状況】

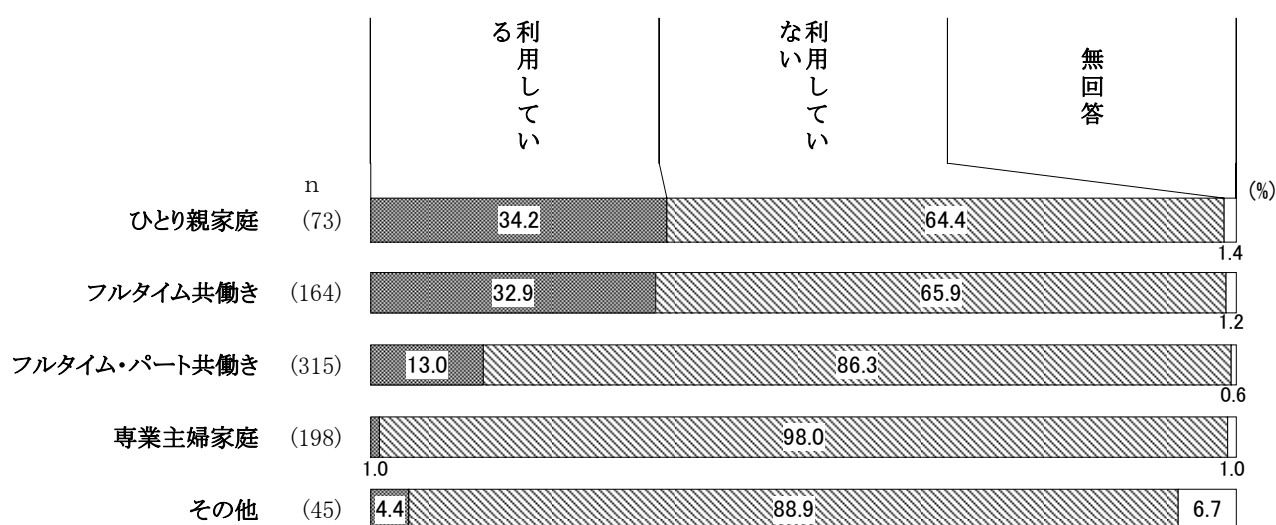


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

5-2 子どもの居場所

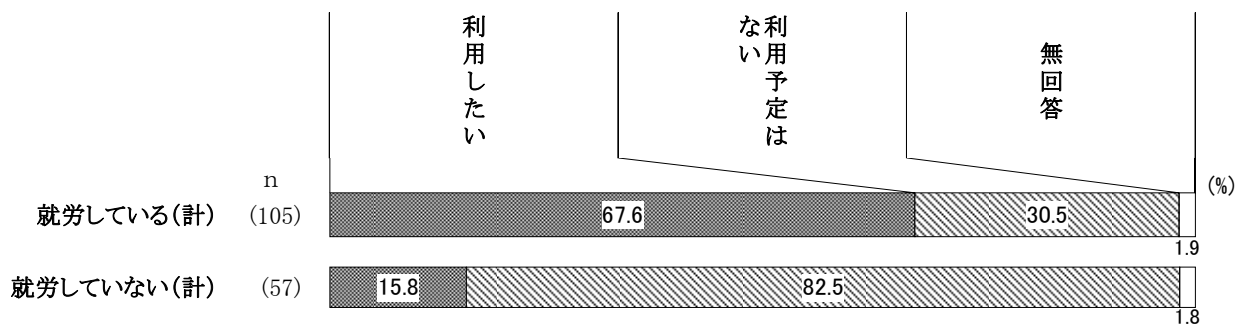
放課後児童クラブの利用状況は、ひとり親家庭や共働きが 3 割台となっており、働く親にとっての放課後の子どもの重要な生活の場となっています。また、就学前児童の今後の放課後児童クラブの利用意向では、就労している親の 7 割弱が利用したいと回答しています。安心して遊べる場・生活できる場づくりが求められています。

【放課後児童クラブの利用】（小学生）

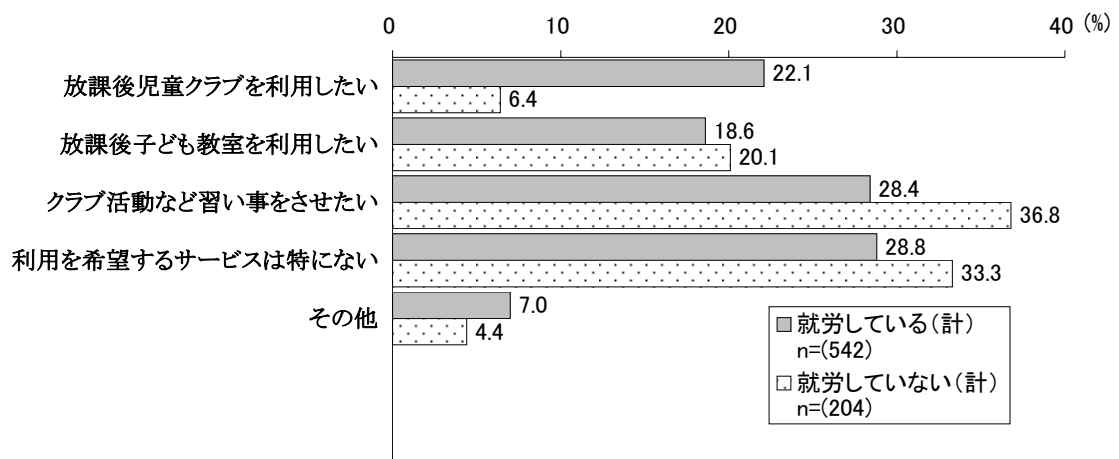


資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成 21 年 3 月）

【放課後児童クラブの利用意向】（就学前児童）



【小学校4年生以降の放課後の過ごし方の希望】（小学生）



資料：熊谷市子育てに関するアンケート調査報告書（平成21年3月）

6 保育の状況

6-1 保育児童総数

市内保育所は、公立 13 箇所、私立 22 箇所、合計 35 箇所となっており、増減はありません。私立保育所の定員数、入所児童数が増加している関係で、全体の定員、入所児童数は増加傾向にあります。

(各年度 4 月 1 日現在)

		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
合計 (①+②)	箇所数	35	35	35
	定員	2,910	2,975	3,020
	入所児童数	3,046	3,037	3,064
公立①	箇所数	13	13	13
	定員	930	930	930
	入所児童数	875	841	821
私立②	箇所数	22	22	22
	定員	1,980	2,045	2,090
	入所児童数	2,171	2,196	2,243

6-2 保育児童割合

0～5 歳人口に占める保育児童割合は、平成 21 年度で 30.6%となっており、年々増加傾向にあります。

(各年度 4 月 1 日現在)

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
0～5 歳人口	10,259	10,113	10,005
保育児童総数	3,046	3,037	3,064
0～5 歳人口に占める保育児童割合	29.7%	30.0%	30.6%

6-3 待機児童数

保育所の待機児童数は、平成 21 年度で 4 人となっており、1 桁台で推移しています。

(各年度 4 月 1 日現在)

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
待機児童数 (計)	8	3	4
0 歳	1	1	0
1 歳	2	2	2
2 歳	2	0	1
3 歳	3	0	0
4 歳	0	0	1
5 歳	0	0	0

6-4 低年齢児保育

すべての保育所で低年齢児保育を実施しています。また、0歳児保育は、31箇所では89%の実施率となっています。

(各年度4月1日現在)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
低年齢児保育実施所数	35	35	35
0歳児保育実施所数	31	31	31
低年齢児保育児童数	901	963	1,055
0歳児保育児童数	81	105	99

6-5 時間延長型保育

延長型保育の実施保育所は、22箇所では63%の実施率となっています。

(各年度4月1日現在)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施保育所	22	22	22
延長保育利用者	187	193	168

6-6 幼稚園の児童総数

幼稚園は、公立2箇所、私立14箇所、合計16箇所となっており、増減はありません。公立、私とも在園児童数は、減少傾向にあります。

(各年度5月1日現在)

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
合計 (①+②)	園数	16	16	16
	定員	4,085	3,980	3,980
	在園児童数	2,764	2,669	2,571
公立①	園数	2	2	2
	定員	385	280	280
	在園児童数	187	137	125
私立②	園数	14	14	14
	定員	3,700	3,700	3,700
	在園児童数	2,577	2,532	2,446

6-7 預かり保育の状況

私立幼稚園の預かり保育の実施数は、14箇所ですべての幼稚園で実施しています。

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
私立	園数	14	14	14

6-8 学童保育の状況

学童保育は、平成21年4月1日現在で35箇所となっており、実施箇所数、在籍児童数とも増加傾向にあります。

(各年度4月1日現在)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施箇所	32	34	35
在籍児童数	1,354	1,443	1,497